



名古屋大学 COI-NEXT
マイモビリティ共創拠点



共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)
地域共創分野

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

超移動社会を見据えた ケアトリップの現状と課題

マイモビリティ共創拠点 研究開発課題5

／名古屋大学 未来社会創造機構 特任助教

外山 友里絵

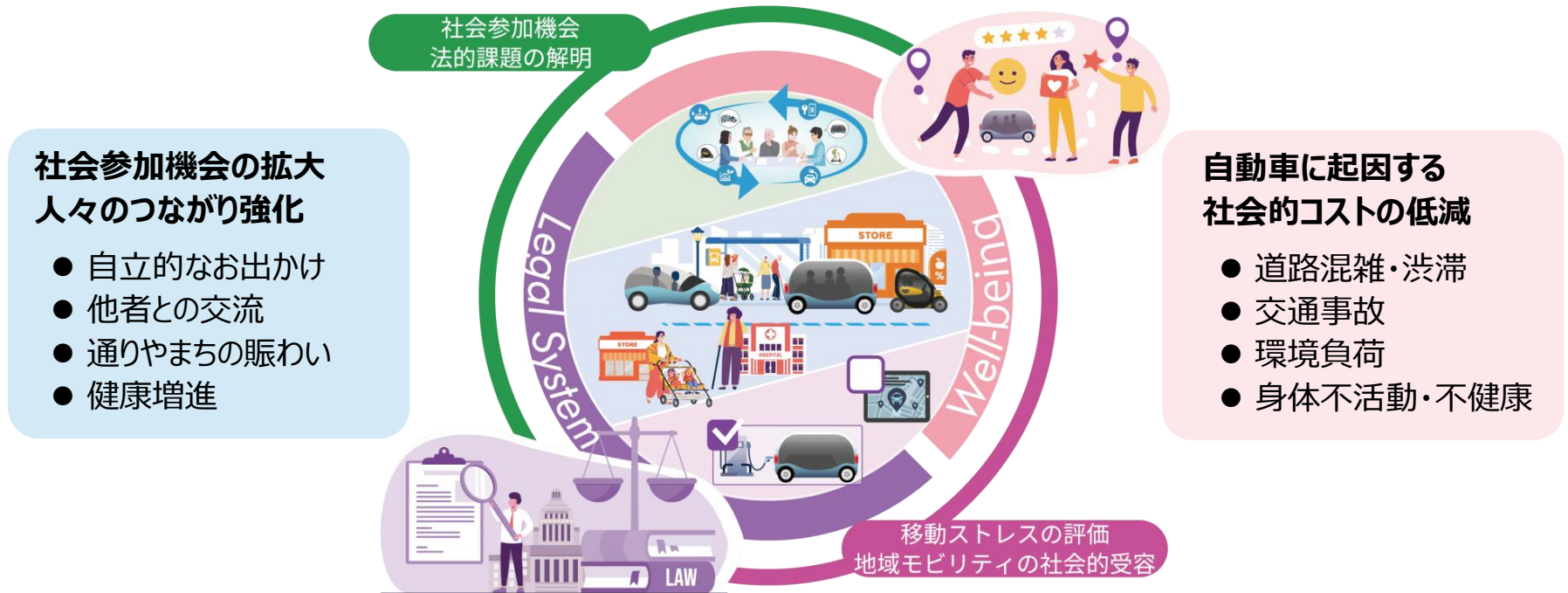
2024年11月8日



取り組んでいること：

【目的】 社会参加機会の拡大と自動車の社会的コストの最小化

【課題】 モビリティ（移動しやすさ）の向上がもたらす社会的価値の評価



自家用車への過度な依存の弊害の一つとして「ケアトリップ」に着目
子どもたちや子育て世代の社会参加機会が移動に関する制約で限定されないように。
ひとりひとりの「選択肢」を広げたい

Mobility of Care (Sánchez de Madariaga and Zucchini, 2019)

- ✓ 家庭の維持、子どもやその他の扶養家族のために大人が行う無報酬の労働
- ✓ 経済的対価を受け取らず、国内総生産（GDP）の計算には含まれない
- ✓ 従来都市計画では、狭義の有給雇用として理解される労働の概念に基づいており、あまり着目されなかった

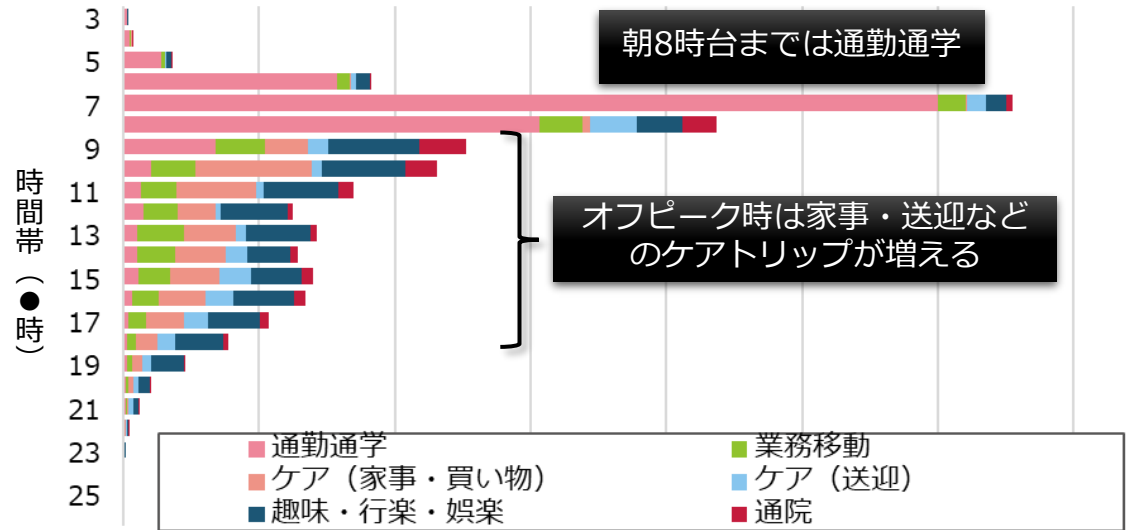


本日は、「ケアトリップ」と呼び、**家庭内の送迎**を主にスコープとして話す

- 日本の公共交通は、運賃収入に大きく依存
- 通勤・通学ラッシュ時間帯にサービスを最適化



Image: adobe stock



第5回中京都市圏パーソントリップ調査(2011)のデータから作成

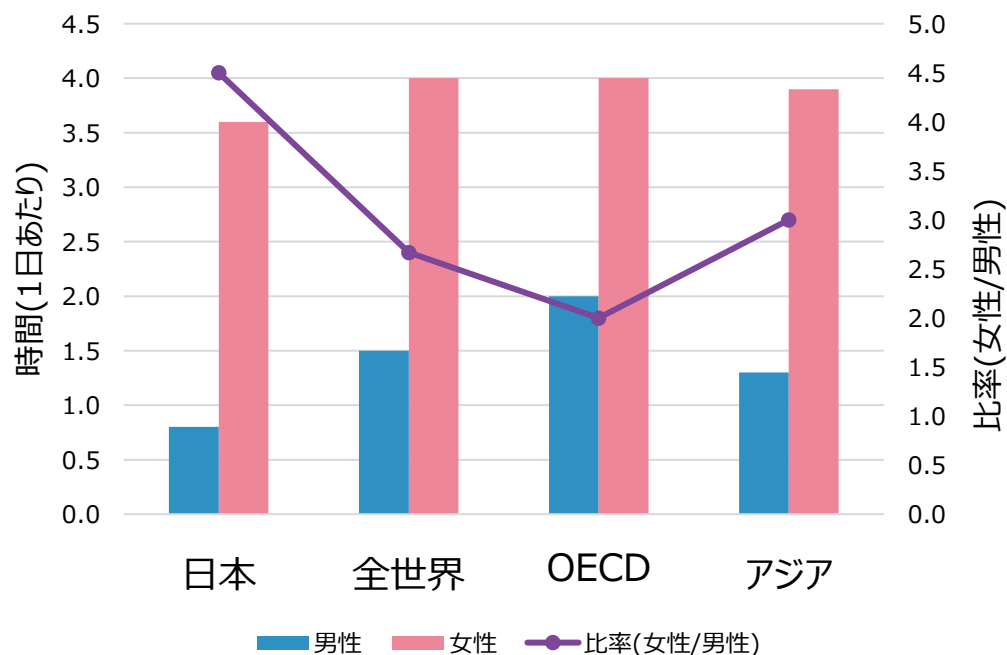
- 一方で、ラッシュ時間帯以外の移動はあまり議論されてこなかった
公共交通の利用者の想定が、
 - ・ 朝通勤して、夜帰ってくる人
 - ・ 郊外から都心に通勤する人
 に偏ってきたのかもしれない
- 送迎に依存せず、自力で移動できる世界が広がれば、送迎する人・される人ともに選択肢も広がるのでは

- ジェンダー平等を推進するOECDでは、SIGI(Social Institutions & Gender Index)を2009年から4年に一度、179ヶ国の収集・分析
- ジェンダー平等の評価にも「ケアワーク」に関する男女格差を位置づけ、モニタリング



OECD (2023), SIGI 2023 Global Report: Gender Equality in Times of Crisis, Social Institutions and Gender Index, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/4607b7c7-en>.

ケアワークを行う時間（1日）



SIGI Dashboard(OECD)のデータから作成



送迎する人

- 送迎を前提とした就労選択（就労有無、場所、時間）
- 心理的、体力的な負担
- 自分が行いたいことの我慢など

送迎される人

- 体験機会・教育機会が家庭の送迎可能性に依存
- 心理的な負担など

地域モビリティサービスの導入

移動手段の選択肢拡大

活動目的地の変更

より望ましい活動機会へのアクセス

交通手段の変更

マイカー送迎以外（徒歩、自転車、バス等）から転換

マイカー送迎から転換

マイカーによるケアトリップの減少

自動車走行量の削減

ケアトリップ関連効果の評価（総合知：交通・教育・心理・ジェンダー）

児童等の体験格差縮小

生徒等の進学先拡大

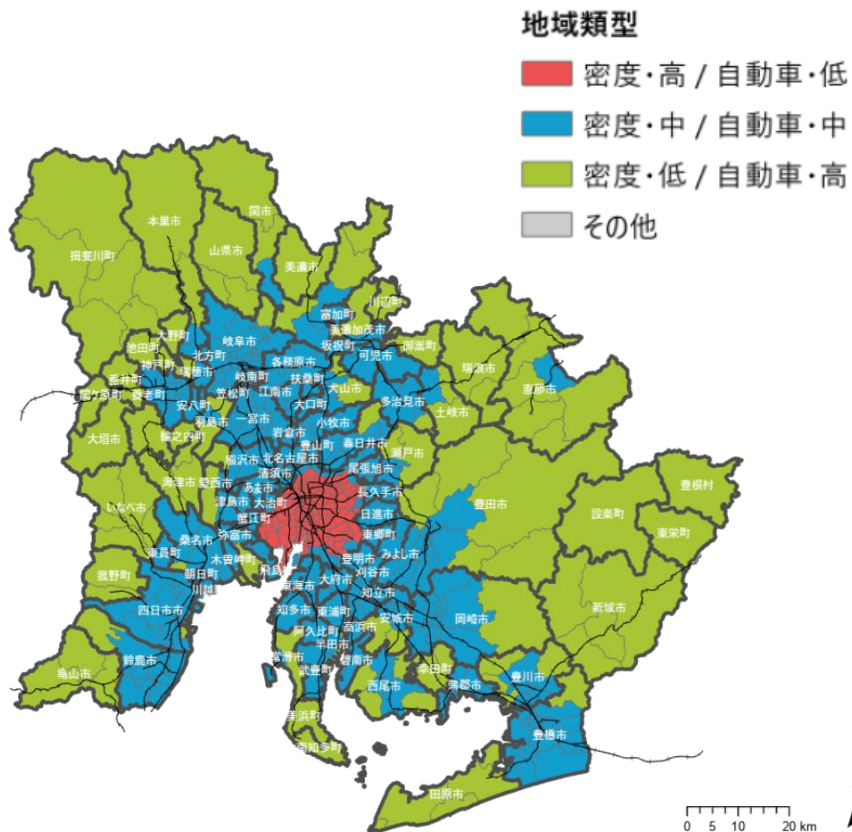
送迎する人の生産性向上

交通事故リスクの低減

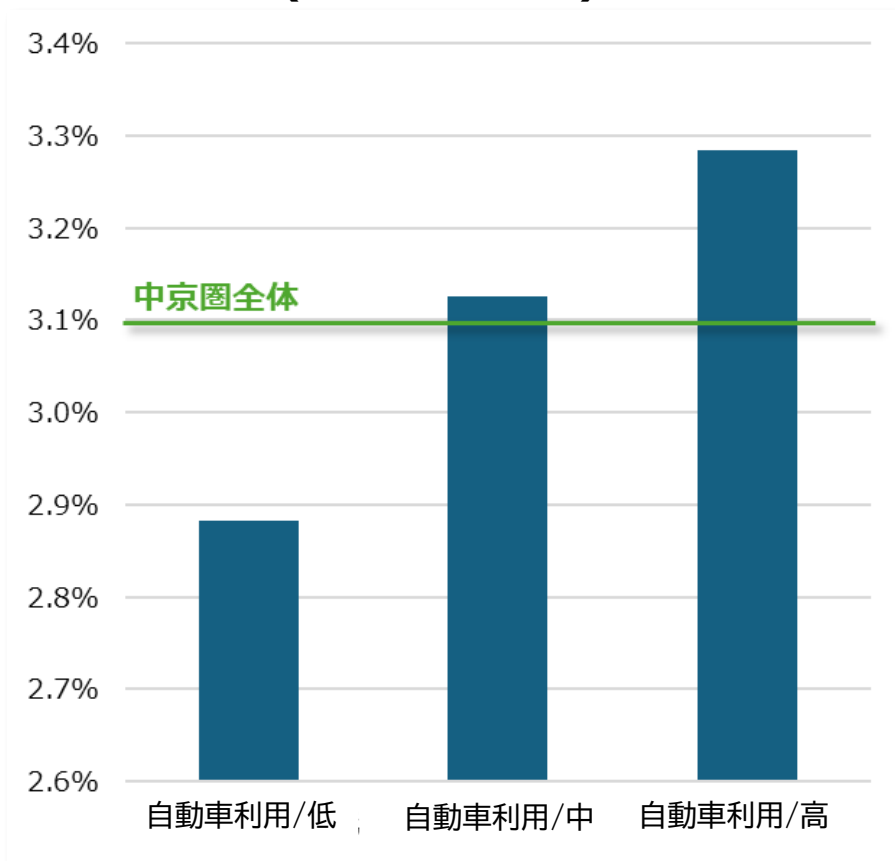
環境負荷の削減

- 自動車利用「高」地域ほど、送迎が多い
- 公共交通を家庭内の送迎で補完する側面が大きくなるのではないかと

都市密度と自動車利用度による地域類型

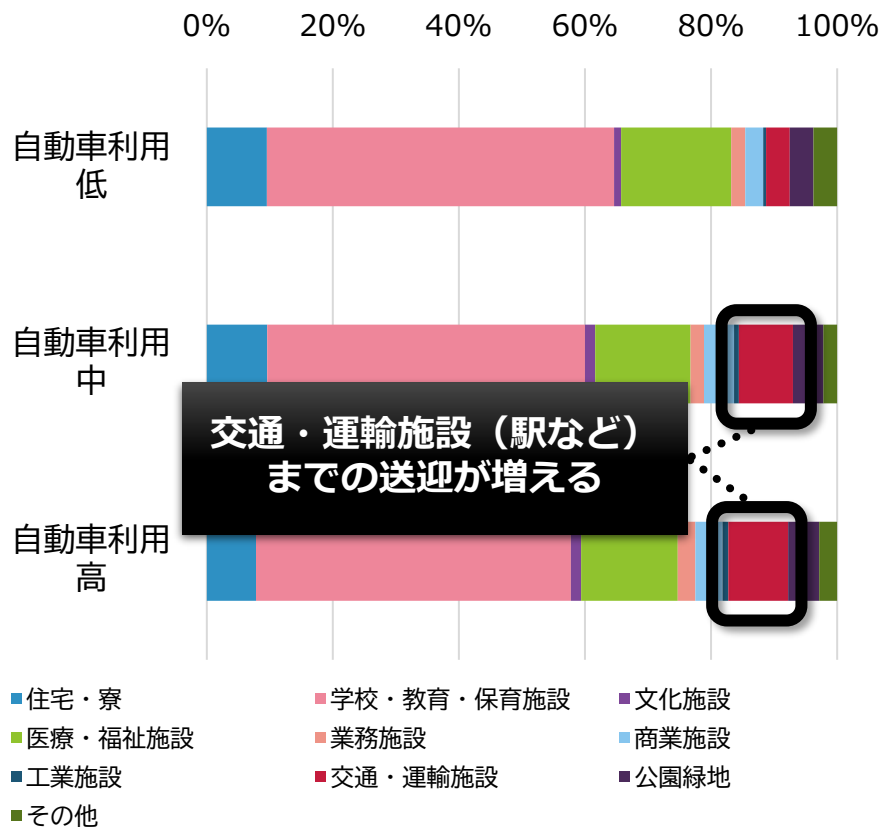


1日の移動に送迎が占める割合 (% : 回数ベース)

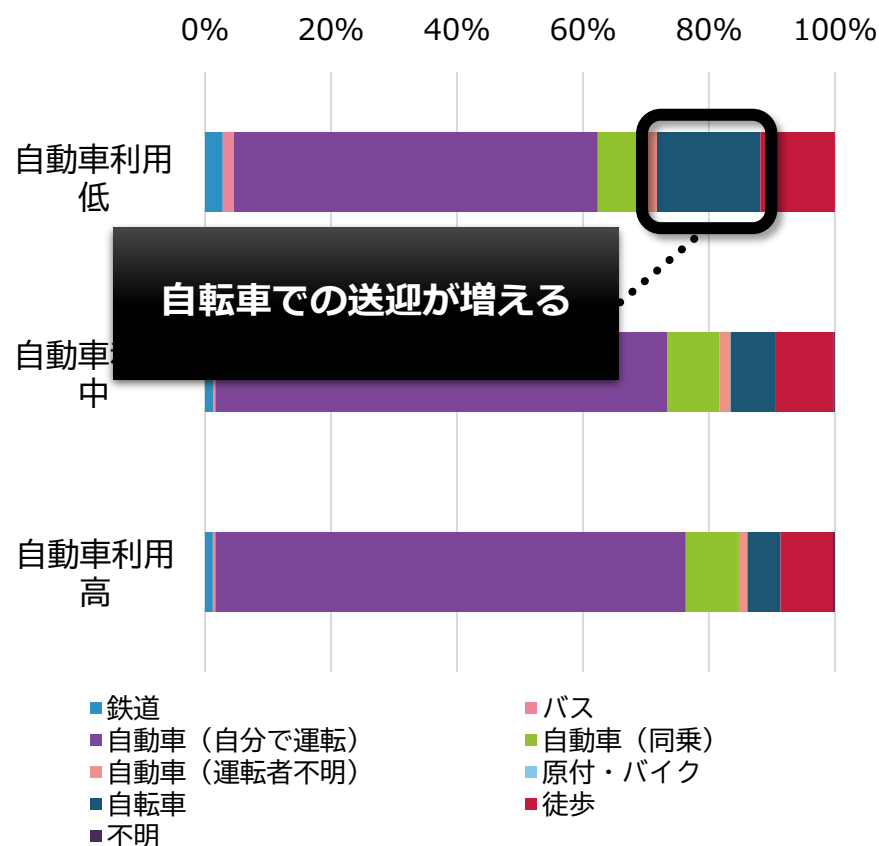


- 「低」地域では、学校等に直接送迎する割合が増える
- 「中」「高」地域ほど、交通・運輸施設が増え、送迎が端末交通の役割を担う

送迎先



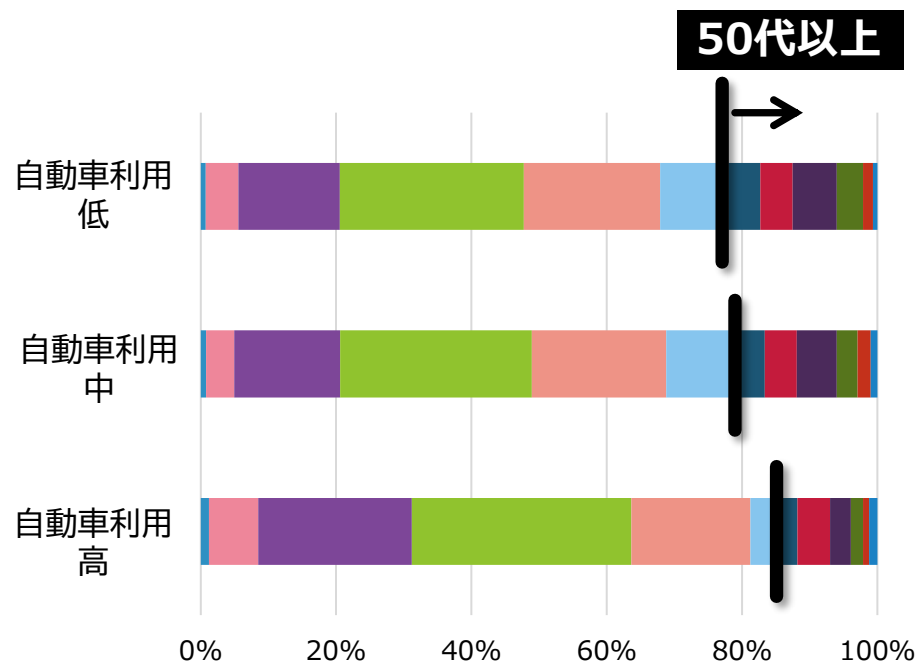
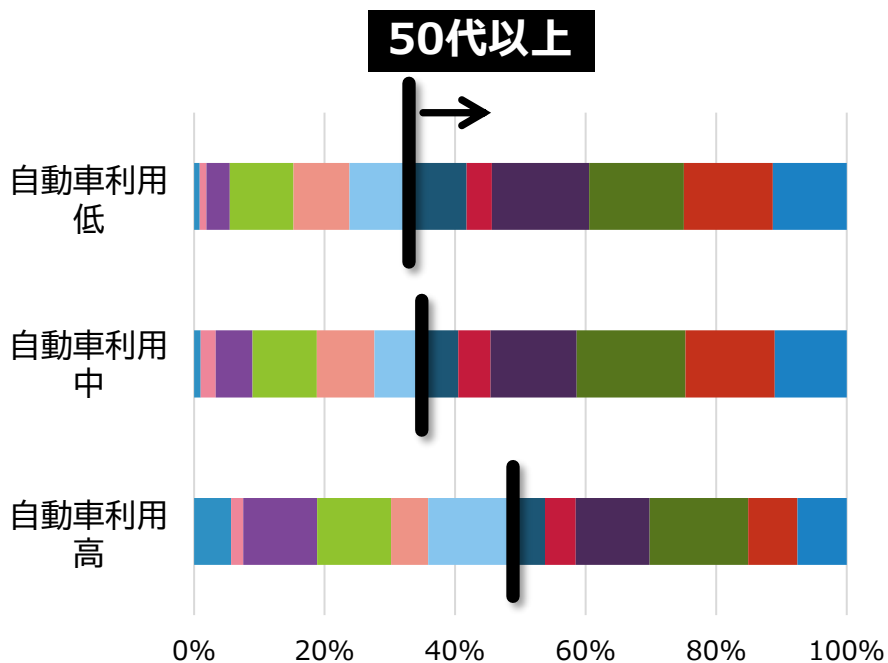
送迎に主に使われる交通手段



- いずれの地域も、女性のほうが「送迎する人」として多く、年齢層が低い

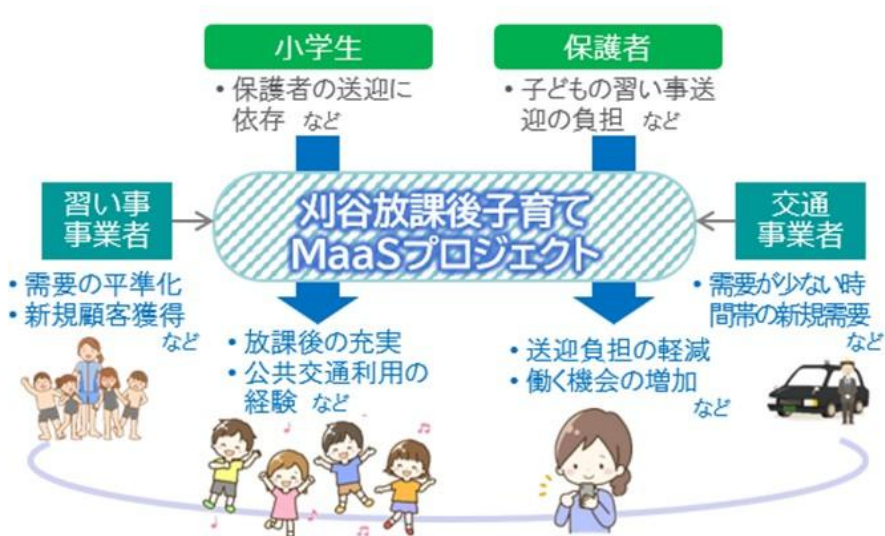
「送迎する人」の年齢構成（男性：N=4,023）

「送迎する人」の年齢構成（女性：N=15,044）



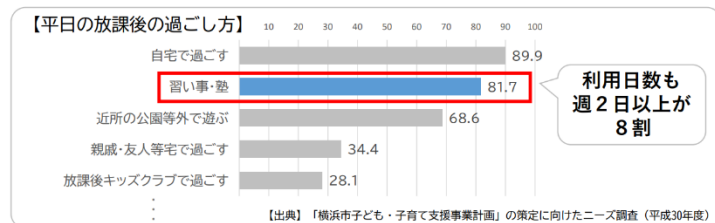
■ 20~24歳 ■ 25~29歳 ■ 30~34歳 ■ 35~39歳 ■ 40~44歳 ■ 45~49歳
■ 50~54歳 ■ 55~59歳 ■ 60~64歳 ■ 65~69歳 ■ 70~74歳 ■ 75歳以上

- 刈谷市は、学校外教育・居場所機能の「つながりステーション」と放課後児童クラブや自宅との移動（子ども相乗りタクシー）を提供（2024年に実証）
- 横浜市は、AIオンデマンド配車システム・サービス提供を行うhabとともに「こども専用送迎サービス」を実施（2023年度に実証）



【背景】

- 小学生の放課後の過ごし方は、「習い事・塾」が8割超



子育て家庭の時間貧困の解消に向けて、「送迎」の負担軽減は、ニーズの高い支援策の一つ

【こども送迎サービスの特徴】

- こども達だけで タクシーに相乗り
- 希望の停留所・日時を リクエスト
- スマホ で登録・予約・乗降通知受取・決済



出所) 刈谷スマートシティ ウェブサイト

出所) 横浜市長定例会見資料 (2023.11.1)



- オフピーク時の移動、特に送迎をはじめとするケアトリップへの気づきのきっかけづくり
- 送迎の負担が減るモビリティサービスの提供
- 送迎にとらわれず、
「行きたい」「会いたい」「参加したい」
+ 「働きたい」「学びたい」「遊びたい」等々...の実現